

2020年度の年間の活動

私たちのまち「御池台」はまち開きから40年以上経過し、高齢化が顕著になりつつあるが、住民の自治意識はまだ高く、「みんなで作る御池台」を合言葉に活動しています。

2020年度は「住まいのまちなみ賞」受賞2年目となり、さらにステップアップした活動実施しようとしたところ、新型コロナウイルスによる「緊急事態宣言」が発せられ、活動の自粛を余儀なくされました。

その中で、感染防止対策をしながら活動を継続しました。

1. まちなみの維持

1) 校区内清掃（3密にならない屋外での活動は実施）

(1) 年間を通して、まちをきれいにする活動を実施。

- ①校区全体清掃（2回/年、延べ3,682名参加）。②アドプトロード清掃（1回/月）。
- ③蚊の駆除薬剤散布（4月～11月）。④夜間パトロール時ゴミ清掃（1回/月）。⑤公園愛護委員による公園の清掃維持管理（適宜）。



2) 緑化の啓発

- ①中学生のボランティア部による苗植え（1回/年）
- ②校区みなみ花咲くまちづくり推進協議会による花壇の維持管理（適宜）



3) 安全で明るいまちづくり（防犯・交通安全）

- ①防犯灯の維持管理として、計画的なLED灯に更新
- ②青色パトカーの更新。登校日は朝及び下校時に見守り活動として校区内を巡回。

2. 災害に強いまちづくり

1) 防災訓練

(計画2回/年、実施1回/年)

春季は非常事態宣言下のため中止。

災害はコロナに関係なく襲ってます。 (2020年7月の九州地方を襲った集中豪雨等)

秋季はコロナ感染対策を採り入れた訓練を実施。11月1日100名を超える参加者が「避難所運営マニュアル(コロナウイルス対策編)」に沿って訓練しました。



2) 防災まち歩き

(御池台小学校と連携 1回/年)

【児童の感想(抜粋)】

11月20日(金)に、御池台小学校の5年生は、「防災まち歩き」に参加しました。学校の体育館はとても広いので、災害が発生した時、何人でも避難できると感じていました。しかし、現実には新型コロナウイルスの影響もあり、90人しか入れないことを知り、驚きました。(略)



3. イベントを通して地域活力を高める

1) 「住まいのまちなみ賞」受賞記念イベントの開催

住民参加型のイベントを開催。

2) コミュニティ強化のイベントの開催

従来から実施している「御池ふるさと祭り」「御池文化祭」等の人混みをコントロールできないイベントは新型コロナウイルスの影響を受け中止としました。

しかし、コロナ対策をしながら「コロナに負けないイベント」を実施しました。

コロナに負けずに取り組んでいること

1. 私たちのまちを誇り、このまちを次世代へ継承

御池台校区の活動は「自治会活動（校区連合自治会、単位自治会）」、「校区福祉委員会」、「校区まちづくり協議会」、「自治型福祉NPO法人」等の年間行事が多彩にあるが、新型コロナ感染対策をしながら、これまでの活動を強化+αとした。

イベントは「自治会加入促進事業」として展開しました。

1) 「住まいのまちなみ賞」受賞記念事業

- ・イベントを通して地域活力を高める活動。
- ・まちづくりの担い手となる元気な中高年、主婦、子ども層の存在を活用。

①みいけキャンドルナイト 2020

3密を避けるため、YouTube 配信に変更。

②キャンドルナイトがYouTube 配信になったので、子どもたちにフランクフルトとビスケットを200名に多世代食堂「みいけ食堂」とコラボしてクリスマスプレゼントしました。

(2020.12.19)

③みいけ音楽会。テレマン室内オーケストラによるニューイヤーコンサート、本物のクラシックを地元で楽しむ。(2021.1.24)

④【自治会加入促進事業】

ジャズコンサート。自治会加入促進のため、自治会未加入者も含めた御池台在住者に特化して音楽会を2月28日(日)に開催。



2) 持続可能な御池台のまちづくりへ

御池台も人口の減少、少子・高齢化の進行による地域活力の低下が課題となっている。昨年より、民（御池台）・学（大阪市立大学）・官（堺市泉北NT再生室）・産（NPO）と協働研究「泉北住宅地のCMP（コミュニティマネジメント活動）」を開始したが、新型コロナ感染拡大と住宅地特有のリスク（需要層の減少等により、近隣センターの商業機能が低下し投資回収リスク）により進展していないのが実情で、継続研究としている。

3) 買い物難民はコロナを逆手にとって解消

近隣のスーパーマーケットの撤収により、高齢者等が買い物に不自由していましたが、コロナ禍で仕事が激減した観光バス会社と提携して買い物ツアーを始めました。(NHKで放映されました)
コープ、ダイエーなどと交渉し、移動販売車を会館周辺に配車していただき、食料品などは近くで購入できるようになりました。



4) まちなみを活かした住民参加型の生涯学習・イベント

御池台の住民は趣味・文化活動の意識が高く、地域コミュニティの形成に一役かっている地域でもある。住民の要望の多い「学校ごっこ」は緊急事態宣言が解除される3月に予定。(会場の小学校の教室を借用するため、6年生が卒業した空き教室で実施)



5) 次世代の子どもたちが「御池台のまち」を誇れるような意識を醸成

- ① 「堺版コミュニティ・スクール」で小学校との協働で推進。

御池台小学6年生が「未来の御池台をよりよくするための16の提案」を児童たちが提案してくれました。自分たちが住んでいる地域の未来を考えるとともに郷土愛を育む活動となりました。

- ② みいけファミリーマラソン (2021.3.14 予定)

1月に計画しましたが、緊急事態宣言により3月に延期。

2. 『どんな人にも住みやすい御池台』をつくる

1) 御池台地域福祉活動計画の見直し

計画から5年が経ち、中間年にあたり見直しを行う。(見直し中)

2) 大阪府の「大阪ええまちプロジェクト」に応募採用(地域づくりを支える多様な主体を応援する取組み)

ServiceGrant プロボノの支援を受け、住民へ自治会加入・活動の周知についての提案を受けました。

- ① 従来通りの紙ベース
- ② SNSを活用(将来は紙ベースを減らし電子回覧板に移行する)



③ 副産物としてプロボノさんとは「zoom会議」でも検討しました。

3) まちの活性化のための調査・研究

まちの活性化先進地区の調査・研修・見学として、住まいのまちなみ賞受賞地域の調査研究視察（緊急事態宣言解除後の3月に計画）を実施予定。

維持管理活動支援費の用途

- 「住まいのまちなみ賞」受賞記念事業
 - ・ まちなみを活かした住民参加型の生涯学習・イベント
 - ・ 出演料等イベント費用
 - ・ 会場費
 - ・ 講師謝礼
 - ・ 材料購入費
 - ・ 諸費用等
- まちの活性化のための調査・研究
 - ・ 先進地域調査のための交通費等
- 印刷費
 - ・ ポスター、チラシ印刷、コピー等

近い将来取り組まなければならない課題

1. 少子・高齢化に対応

1) 住民の高齢化

御池台は人口の減少、少子・高齢化の進行による地域の活力の低下が懸念されている。これをポテンシャルと捉えれば、元気な中高年の存在は一方で、まちづくりの担い手となる資源でもある。

この資源を活用して現役世代に“魅力的なまち”をいかにして創造してゆくかが、今後のまちの活性化のキーとなる。

2) 空き家対策

御池台はまだ空き家は少ないが、活気あるまちづくりは喫緊の課題となってくる。御池台特有の持ち家がほとんどを占め、賃貸住宅が少ないことが、若年層を呼びこみにく

い構造になっている。

開発当時の入居者を第一世代とすれば、子どもの第二世代、第三世代の世代継承等、多種多様な対策が求められる。

2. 府営住宅のリノベーション

1) 地域唯一の賃貸である府営住宅のリノベーション計画

賃貸住宅は若者の世帯形成の受け皿でもあり、現役世代を呼び込むには必要です。リノベーションの案件はいまだに進展していないのが現状である。

府営住宅のリノベーションにはまちづくりの観点から積極的に関わっていきたい。

3. SNSを利用した情報発信

1) デジタルの力で、自治会を身近なものに！

SNSを活用して自治会の情報を発信する。将来的には自治会のポータルサイトを立上げ、回覧板の電子化を図る。